

# 「教職概論」におけるアクティブ・ラーニングの実践

南中道 隆

## Practice of active learning introduction to teaching profession

T a k a s h i M I N A M I N A K A M I C H I

### 1 はじめに

平成 29 年より順次改訂された幼稚園教育要領、小・中・高等学校学習指導要領では、知識の理解の質を高め、資質・能力を育むために「主体的・対話的で深い学び」いわゆる「アクティブ・ラーニング」の重要性について述べられている。筆者は昭和 57 年 4 月から 38 年間宮崎県公立小学校教員や宮崎県教育委員会事務局職員として勤務した経験を有しており、平成 29 年度告示された小学校学習指導要領に基づき、平成 30 年・令和元年度の移行期間に「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業改善の在り方について探ってきた。元来「アクティブ・ラーニング」の考え方は大学における授業改善の取組から始まったものであり、中央教育審議会でも平成 24 年 8 月に「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」を答申している（以下「平 24 中教審答申」）。e ランニング戦略研究所が平成 29 年 2 月に実施した「大学・専門学校におけるアクティブラーニング実施に関する調査報告書」では、回答者（118 名）の所属する大学・専門学校の 9 割(88.9%)が全校又は部局や教員によって異なるが多くの授業で導入されている状況にある。

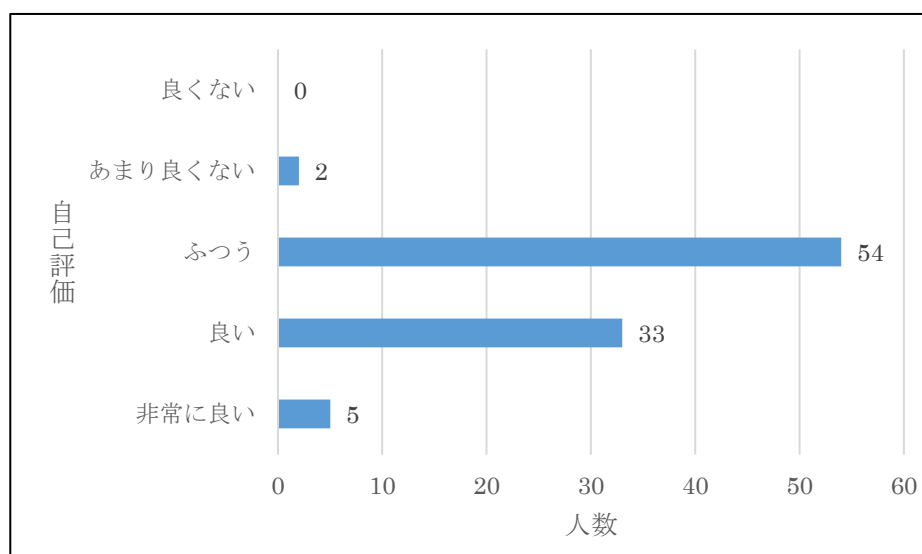
本学の保育科は、保育士資格や幼稚園教諭二種免許等を取得し、保育者として将来活躍できる学生を養成する教育機関であり、この世に生を受けて初めて集団生活を送る子ども達をしっかりと支援できる高い資質・能力をもった保育者を養成することが大きな使命である。そのためにも学修者が問題意識をしっかりとって授業に臨み、意欲的に学ぶために「主体的・対話的で深い学び」のある授業を構築するとともに、そのことを通して保育者として就職後も自らのスキルアップ・キャリアアップを目指そうとする態度を育てることが大切である。本研究では、「平 24 中教審答申」にも述べられている学士課程の教育の質的転換として目指す「能動的学修（アクティブ・ラーニング）」について、筆者の担当する「教職概論」の授業において実践するものである。

### 2 研究の内容

#### (1) 事前のアンケート調査

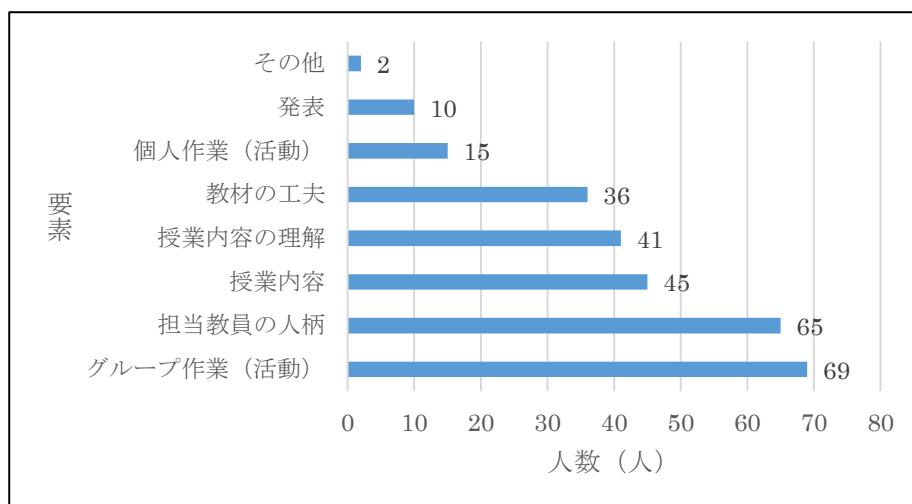
この研究を行うに当たって、本学の学生に下記のようなアンケート調査を行った。調査対象者は本学 2 年生 3 クラス 97 名（回答者 94 名）である。なお、本研究は宮崎学園短期大学研究倫理審査会の承認を受けている。

Q 1：これまでの大学の授業に対する自分の取組姿勢を評価するとどれに当たりますか？



対象学生の 40%ほどが自分の授業への取組姿勢については「良い」又は「非常に良い」と評価しており、肯定的に見ている。この対象学生は 1 年次の前期に他の科目で授業を担当していたが、比較的しっかりとした授業態度で授業に臨んでいた印象があり、この自己評価もある程度うなずけるものである。

Q 2：あなたが楽しいと感じる授業にはどんな要素がありますか？（複数回答）



対象学生が楽しいと感じる授業の要素として、73%の学生がグループでの活動を挙げている。反面個人での活動に対しては 16%ほどに留まっている。つまり、個人で考えたり調べたりする活動はあまり楽しさを感じないが、グループになって話し合ったり考えたりする活動に楽しさを感じているようである。関連して、このアンケート調査の最後に、大学の授業に対する要望を自由記述で書いてもらったところ、「教員がずっと話しているだけの授業はつまらないからグループ協議とかをもっと増やして欲しい」「小さな声で話すことや 1

人で話して学生を置いていくような授業はやめてほしい」「書くことが多い科目は、書くことばかりに集中してしまい理解に直結しないイメージがあるので、書くことよりも考えることを増やしたほうが理解を深めることができるかと思います」という意見も挙がっていた。また、授業内容やその理解度、教材の工夫に対しても、いずれも 40%前後の学生が授業を楽しんでいると感じる要素として挙げており、積極的な学修への取組とその結果として得られる満足感に繋がる大切な要素と言えよう。さらに担当教員の人柄という要素を挙げた学生が 70%ほどいたことには驚かされた。常日頃から学生とコミュニケーションを大切にしていかなければならないと思った。

## (2) 課題解決的な授業展開と予習的課題

これらのアンケート調査をもとに、学生が問題意識をもって自ら主体的に授業に臨むためには「課題解決的な授業展開」は必須である。学生が嫌う授業者の一方的な話だけの授業をなくし、学生が望むグループでの活動を展開できるからである。また充実したグループ活動が展開されるためには、個人での活動の時間を確保し、学生一人ひとりが課題に対する自分なりの解をもってグループ活動に臨むことが大切である。さらに本時の学修課題が学生にしっかりと意識されるためには効果的な導入が必要である。前述の「平 24 年中教審答申」では授業外学修の重要性が述べられているが、本研究では特に予習的課題として次時に繋がることを考えたり調べたりすることを課すようにした。

本研究で実践するアクティブ・ラーニングを推進する授業展開は以下の通りである。

段階	授業展開及び学生の活動	授業者の働きかけ
つかむ	1 本時の学修課題をつかむ。 ○ 前時の学修内容を想起するとともに、予習的課題について確認し、本時の学修課題を意識する。  2 本時の授業の流れをつかむ。 ○ 本時の授業展開を知り、個人で調べることや考えることを確認するとともに、その後のグループ活動の要領についても確認する。	○ 前時の学習内容を簡単に振り返り、本時とのつながりを意識させる。予習的課題を課している場合は、学修問題とのつながりについて押さえる。 ○ 本時の大まかな流れと配当時間、個人活動とグループ活動の要領について確認する。
調べる	3 各自で学修課題を追究する。 ○ 各自で本時の学修課題について、予習的課題の結果や紙ベースの資料やスマートフォンを使った検索等を活用しながら追究し、自分なりの解を出す。 4 グループで本時の学修課題を追究する。 ○ 各自で考えた自分なりの解を出し合い、グループとしての解を出す。	○ 学生間を回り、活動が進んでいない学生へ机間支援を行う。進んでいる学生については新たな視点での課題を与える。 ○ グループ間を回り、活動が進んでいないグループへ机間支援を行う。
	5 クラス全体で学修課題についてまとめる。 ○ グループごとに話し合ったことを発表	○ グループごとに発表し、その発表に対して質疑応答を設け、相互の共通点や相違点を明らか

広げる まとめる	し合い、学修課題についてまとめる。次週への予習的課題を知る。  6 本時の学修を振り返る。 ○ 本時の学修で学んだことを書くことで振り返り、自分の授業への取組姿勢を自己評価する。	にし、学生の発表をもとにまとめる。次週の予習的課題を伝える。 ○ ユニバーサル・パスポートを活用して、本時で学んだことか書かせるとともに、授業への取組姿勢について自己評価させ、授業者の授業改善に生かす。
-------------	--	--

### (3) 検証方法

上記の「課題解決的な授業展開」を「教職概論」の授業において実施し、学生の授業に対する満足度に反映されたかを毎時間の自己評価（5 段階評価）と学んだこと（自由表記）で検証していく。「予習的課題」については「予習的課題」を課したときに、かかった時間と自己評価（5 段階）で授業外学修の充実度を検証していく。また、全授業終了後に「課題解決的な授業展開」と「予習的課題」に対するアンケート調査を実施して、「教職概論」受講前の授業への取組姿勢との比較等を通して、これら学生が能動的な授業姿勢に効果があったのかを検証していく。

## 3 研究の実際と結果

### (1) 実際の授業展開と予習的課題

以下は、第 3 次限目の授業展開である。この授業については「教職概論」（佐藤晴雄著 学陽書房）を参考に授業を構築させていただいた。

段階	授業展開及び学生の活動	授業者の働きかけ	形態
つ か む	1 前時の学修内容を想起する。 ○ 教育基本法や学校教育法を通して教育の目的や学校制度等について想起する。	○ 前時で使用したプレゼン資料をもとに、教育基本法や学校教育法を通して調べた教育の目的、幼稚園教育の目的、学校の種類等について想起させる。	一斉 3 分
	2 本時の学修課題をつかむ。 ○ この授業の科目名にある「教職」という言葉の意味や類義語を調べ、様々な教育関係法規に見える「教職」の範囲について調べていくことが本時の学修課題であることをつかむ。  <div data-bbox="295 1803 914 1924" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             教育に関する関係する法律を調べ、教職の名称と範囲について調べてみよう。           </div>	○ 予習的課題で調べてきた「教職」の類似語の意味を確認させ、これらの言葉が教育関係法規の中でどのように使われているのか関心をもたせ、本時の学修課題に繋ぐ。	一斉 7 分
	3 個人及びグループで調べていく内容について	○ 「義務教育標準法」を例	一斉

	<p>て確認する。</p> <p>○ まず全員で「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員の定数の標準に関する法律」（義務教育標準法）をもとに、調べる内容を確認する。</p> <p>・ 法律の目的、教職の名称、具体的な教職の範囲について調べる。</p>	<p>として挙げ、調べる内容を全員で確認させる。法律の目的は第 1 条、教職の名称職の名称とその具体的な範囲は第 2 条に述べられていることを押さえることで、個人やグループでの活動がはかどるようにする。</p>	10 分
調 べ る	<p>4 提示された教育関係法規について、各自で調べていく。</p> <p>○ 各自のスマートフォンを活用して下記の法律を調べ、ワークシートにまとめる。</p> <p>・ 人材確保法、給与特別措置法、中立性確保法、教育職員免許法、教育公務員特例法</p> <p>5 各自で調べた内容を、グループ内で確認し共有する。</p> <p>○ 1 つ 1 つ確認し、相違点があれば再び法律に戻って確認する。発表者を決め、発表部分をスマートフォンで写真に撮り、授業者にエアードロップで送る。</p>	<p>○ 今後の授業の中で関連して扱うであろう義務教育標準法を含めた 6 つの教育関係法規について調べさせる。</p> <p>○ 作業の進まない学生についてはアドバイスしていく。</p> <p>○ 最初に司会者と発表者を決めて協議させる。各グループが発表する法律を指名しておき、最初にその法律について確認させておく。</p>	個人 20 分  グループ 15 分
ま と め る ・ 広 げ る	<p>6 グループごとに発表する。</p> <p>○ 分担した法律について、その目的と教職の名称及び具体的な範囲を発表する。聞き手のグループは自分たちのまとめと比較しながら聞く。</p> <p>7 教職の名称と範囲についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>教育は多くの法律に基づいて行なわれている。また教育関係法規においては教職の名称として「教育職員」が多く使われているが、その具体的な範囲は法律によって異なっている。</p> </div> <p>8 「教職の特殊性」について考える。</p> <p>○ 「給与特別措置法」や「教育公務員特例</p>	<p>○ 各グループから送信された画像データをプロジェクターで写し、それをもとに発表させる。</p> <p>○ 6 つの教育関係法規のうち 4 つが「教育職員」という言葉を使っているが、その具体的な範囲は法律によって異なっていることに気付かせる。また日本の教育は様々な法律によって規定されて実施されていることに気付かせる。</p> <p>○ 「給与特別措置法」と「教育公務員特例法」の</p>	一斉 10 分  一斉 7 分  グループ

	<p>法」の目的にある「特殊性に基づき」という言葉に着目し、グループで考え、まとめる。</p> <p>○ まとまったグループは発表する。</p> <p>9 「教職の特殊性」についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教職は「聖職」と言われ、他の職業以上に勤勉性、奉仕的精神、模範性、高い職業倫理などを求められる。</p> </div> <p>10 本時の学修の振り返りを行う。</p> <p>○ ユニバーサル・パスポートを使って、本時に学んだことをまとめ、授業への取組姿勢について自己評価を行う。</p> <p>○ 次時に向けた予習的課題を知る。</p>	<p>目的にある教育の「特殊性」という言葉に着目させ、教職が他の職業と比べて特殊だと思うことを話し合わせる。</p> <p>○ 学生から出た意見をなるべく使いながら、教職の特殊性についてまとめる。</p> <p>○ 自己評価をさせるとともに、次時の予習的課題として「教職の意義」について自分なりの考えをまとめておくことを伝える。</p>	<p>10 分</p> <p>一斉 5 分</p> <p>個人 3 分</p>
--	---	--	---

この授業では「予習的課題」として下記のように、「教職」と似ている言葉として「先生」「教師」「教員」「教育職員」「教職員」「教諭」の6つを調べてもらうようにした。意図とし

令和3年度教職概論 第2回予習的課題

2保く( )クラス 学籍番号( ) 氏名( )

※ 次の言葉の意味を調べてみよう。

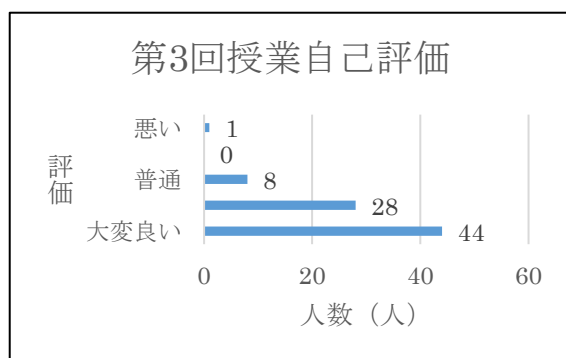
1	先 生	
2	教 師	
3	教 員	
4	教育職員	
5	教 職 員	
6	教 諭	

ては、「教職」に関する類似語の意味を整理するとともに、本時で取り上げる教育関係法規でよく使われる「教育職員」(学生としては余りなじみがないと思われる)という言葉を押さえることにある。

なお、次時の授業に繋ぐための予習的課題としては、「将来皆さんが保育者として働いていくことは、子ども達や社会にとってどんな意義があるのか」という教職の意義について自分なりの考えをまと

めてくるように指示した。

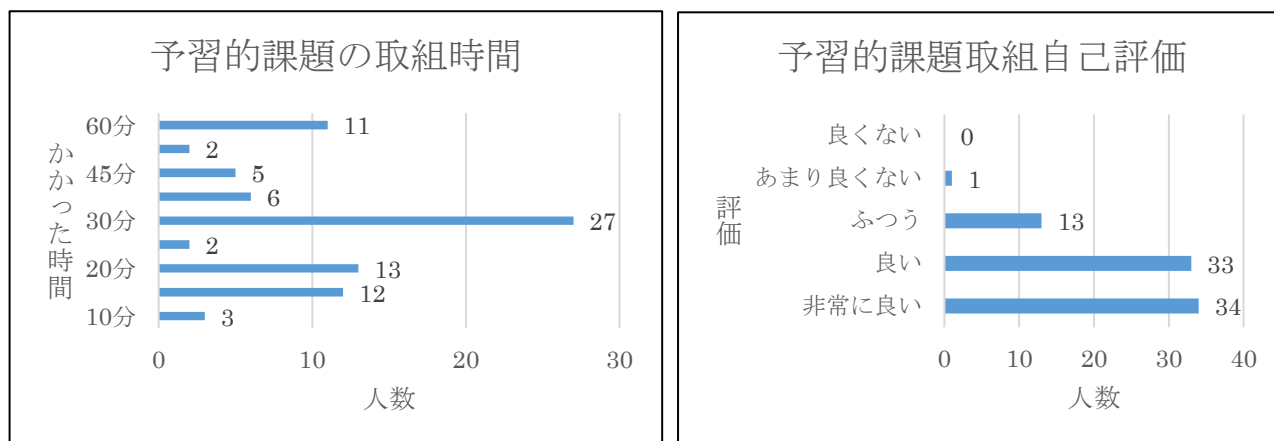
この授業に関する学生の自己評価の平均値と学んだこと(自由表記)に見られる意欲や態度に関する記述は以下の通りである。



前述の事前アンケートのQ1の結果と比較するとかなり自己評価が高くなっていることがわかる。自由表記においても「グループのメンバーと一緒に調べ学習をすることで理解がより深まりました。」「友達と教え合いながら学ぶことが出来たので良かったです。」「教職の法律についてみんなで調べ共有することでより深い理解につながった。」と肯定的な感想がいくつも見られた。

また予習的課題についての取組状況は以下の通りである。

予習的課題を家庭など授業外で取り組んだ時間は 10~60 分とかなり差が大きい、平均で約 32 分かけており、自己評価も 83%の学生が自分の取組を「良い」「非常に良い」と評価している。自由表記でも「今まで『先生』や『教師』などの意味を曖昧で理解していたので、今回の予習課題を元に復習することで、『先生』などの言葉の意味をはっきり理解することができました。」という意見が見られた。



## (2) 「教職概論」全体を通しての実践状況

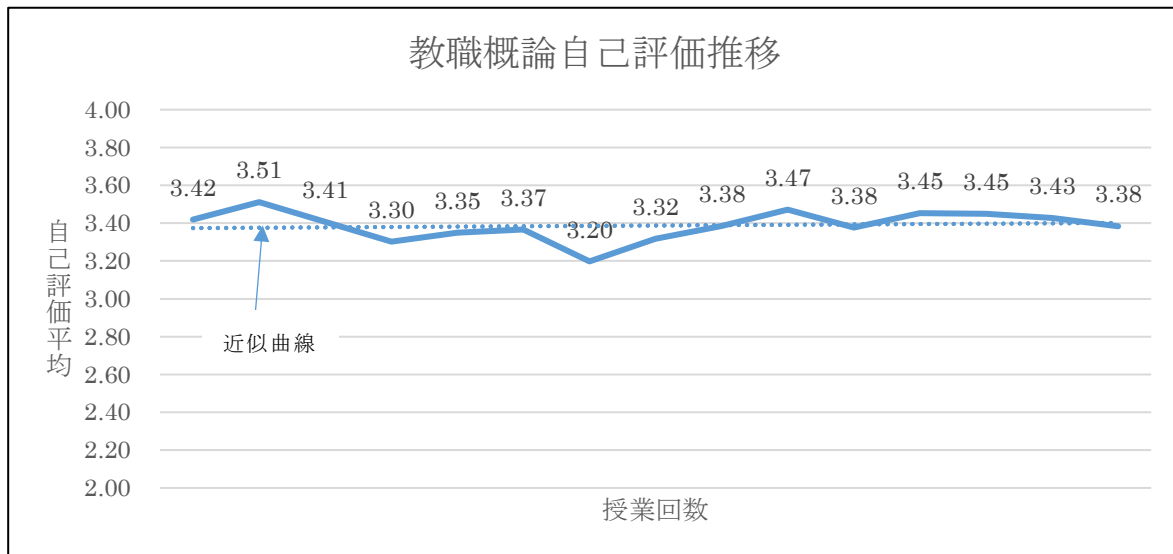
以下は「教職概論」15 時間分の「課題解決的な授業展開」と「予習的課題」の実践状況である。

授業回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
課題解決的な授業状況	部分	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	なし	部分	なし	部分	なし
予習的課題の有無	無	有	有	有	有	有	有	無	無	無	無	無	無	無	無

「課題解決的な授業展開」で「全体」とあるのは、90 分の授業全体を通して問題解決的な授業展開ができたものを言い、「部分」とあるのは一部分の課題に対して個人やグループの活動を通してその解決に迫ったものを言う。また、予習的課題の有無についてはその時間に予習的課題を課した意味ではなく、前時に課した予習的課題を授業で活用したことを意味している。

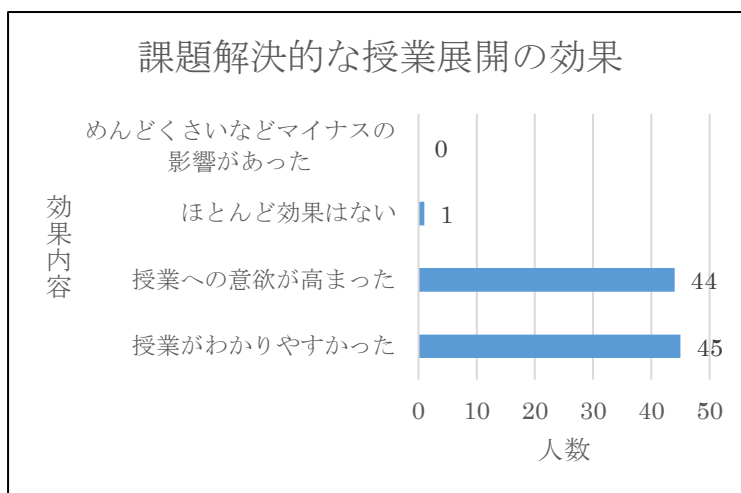
以下は、時間ごとの学生の授業への取組姿勢に関する自己評価の状況である。ここでは自己評価の平均値を見ていくために、「大変良い」を 4 点、「良い」を 3 点、「ふつう」を 2 点、「もう少し」を 1 点、「悪い」を 0 点として集計していった。

その結果、授業によって多少の高低は見られるものの、15 回全ての授業で自己評価平均値が 3.20 以上となり、自己評価が大変高い結果となった。またデータの推移を大まかに表した近似曲線もわずかなではあるが、右上がりに高くなる傾向を示した。



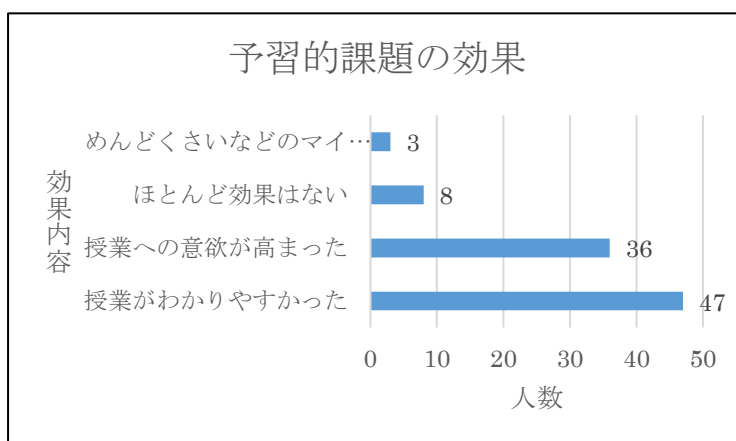
(3) 「教職概論」15回終了後の学生のアンケート調査結果

全15回の授業終了後、「課題解決的な授業展開」と「予習的課題」に関するアンケート調査を行った結果は以下の通りである。



まず課題解決的な授業展開を行ったことが学生に与えた影響については、意欲の高まりと理解しやすさという肯定的な意見がほとんどで、否定的な意見はわずか1人であった。自由表記でも「学友と話し合う時間があったことで、自分にはなかったアイデアや考えに気付くことができ、勉強になりました。」「自分たちで調べたことを発表することで、調べたことの

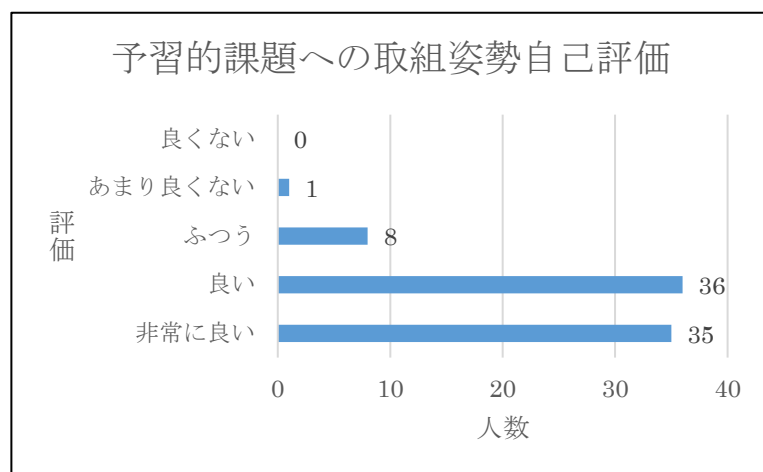
達成感があり、内容がわかっているという自信につながると考えました。」「グループで話し合うことで、自分の考えをしっかりとめて共有することに繋がるので、自分の考えが深まりました。」などの意見が見られた。



また予習的課題についても、学生はほとんどが肯定的にとらえている。ただ、課題解決的な授業展開に比べると否定的な意見も若干見られ、学生の素直な意見だと感じる。自由表記では「予習課題を自宅でするため、進めながら次の授業への関心が深まり、内容をある程度知った上で授業に参加できるといった利点がありました。」「

「予習的課題をすることで次の授業の学ぶ準備をすることができ、授業でも詳しく復習する





ことができてよかったと思います。」という意見が見られた。中には「短時間で簡単に取り組みめるものにする。」「長文を書くような課題ではなく、クイズ形式や穴埋めなどにするとやりやすい。」といった要望も見られた。予習的課題に対する学生の取組姿勢は、自己評価ではかなり高い評価結果となっており、学生なりにまじめに取り組んだ様子が見られる。

#### 4 考察

「教職概論」の授業を昨年度から担当し2年目を迎えたが、「教職の意義や教員の役割、教員の資質能力と職務内容等について理解し、教職への意欲を高めていく」というこの科目は、短期大学2年生で就職を目前にする学生にとって大変タイムリーで意義深いものであると考える。しかしながら、内容的には授業者の説明などに偏りがちである。しかも本学学生はそのほとんどが私立の教育・保育施設に保育者として就職していくこともあり、学修内容が公立学校や義務教育学校に関わりの強い部分も多く、本学学生が学ぶ必要感をもちにくい授業内容も多い。そこで学生が主体的に学ぶ「教職概論」の授業を目指し、「課題解決的な授業展開」と「予習的課題」について実践してきたが、以下のような成果と課題が見えてきた。

##### (1) 成果

- 研究を始める前の学生のアンケート調査では、授業への取組姿勢の自己評価が数値化すると2.44であったが、「教職概論」の15回の授業では、いずれの回も「大変良い」と「良い」の中間の自己評価であり、平均値で3.39と研究前から0.95も高くなっている。学生はかなり意欲的に「教職概論」の授業に取り組んだと感じている。
- 「課題解決的な授業展開」は、学生にとっては授業に対する自己評価も高くなり、満足感も高まっている。特に、各自で自己解決したことを持ち寄ってグループでさらに協議し、解を共有したり深めたりする活動に楽しさや満足感を感じている。
- 「予習的課題」は、学生の負担感から否定的な意見が見られるのではないとか考えていたが、「課題解決的な授業展開」をスムーズに行う上では効果的であり、学生も「予習的課題」を行うことで、本時の授業への準備や意欲喚起を図ることができたようである。

##### (2) 課題

- 毎時間「課題解決的な授業展開」をどのように構成していくかは大きな課題である。その時間の目標を達成するためには、どのような学修課題を設定し、どのような資料を準備していくのか、授業者にとって悩みどころであった。また、学生は個人での追究やグループによる協議を好むが、その活動が充実するための手立てには課題が残った。単に友達とわいわい楽しく話し合うだけの活動で終わるグループも少なくなかった。いかに個人での課

題追究を充実させ、それぞれが自分なりの解をしっかりとってグループ協議に入ることがポイントとなろう。

- 「予習的課題」については、概ね学生が主体的に授業に取り組む手段としては有効と思われるが、15回の授業の自己評価を見ると「予習的課題」を出した回とそうでない回の差がなく、客観的な数値で効果として挙げるができなかった。
- 新型コロナウイルス感染が完全に収まっていない状況下で、グループでの活動を取り入れることはリスクもあり、マスク着用と学生同士の距離、換気に配慮しながら行った。また途中から Zoom による遠隔授業となったため、ブレイクアウト・ルームの機能を使ってグループでの協議を行ったが、対面授業ほどの深まりがなかった。
- 授業者が感じる学生の授業への取組姿勢と、学生の自己評価に差を感じることも少なかった。この研究の成果を図る客観的なデータであったので、自己評価の在り方についても今後研究していく必要がある。

#### 引用・参考文献

- 1 中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」
- 2 株式会社デジタル・ナレッジ「e ランニング戦略研究所」（2017）「大学・専門学校におけるアクティブラーニング実施に関する調査報告書」  
(<https://www.digital-knowledge.co.jp/wp-content/uploads/2017/03/active-learning-investigati-univercity.pdf> 最終閲覧 2022.2.25)
- 3 佐藤晴雄（2013）「教職概論 第3次改訂版」学陽書房